

週刊イマドキ学生新聞

FOCUS

あなたの世界が、ちょっと広がる。

vol.223

元・立誠小学校（京都市中京区）で10月4日から12日まで「シュニット 京都国際短編映画祭 2014（以下シュニット）」が開かれた。シュニット 国際短編映画祭とは、タイ・アルゼンチン・エジプトなど8カ国同時開催の映画祭。世界各地から選ばれた短編映画100本以上を上映する。関連プログラムにおいて、大阪芸術大と京都造形芸術大の学生が制作した全6本の映画も5日に上映された。

「映画は人に見られてこそ映画となるので、今回シュニットで発表できてうれしい」。荻島健斗さん（京都造形芸術大・4年）は、男がストーカーをし続ける姿を表現した『ニュートラル』の監督を務めた。脚本・演出・役者まで、全て学生主体で作った映画だ。ロケ地で上映会を開くなどしたが、学内での発表で終わる作品がほとんど。「まったく関

わりのない人に映画を見てもらう機会はあまりない」と言う。

また、3人兄弟を描いた『椅子とかのこと』の監督である吉本彩さん（同）は「普段は他の人の作品と一緒に自分の映画を見ないので刺激的だった」と話す。

学生制作の映画、見たことありますか？

主催者の谷元浩之さんは「日本では学生制作の映画が過小評価されている」と思い、関連プログラムの中に学生の作品を組み込んだ。海外では、プロ・アマチュア・学生などの立場によらず、作品自体を評価されることが一般的。「実際、今回の学生が制作した映画は完成度が高かった」と語る。

さらに海外の映画祭は、学生による発表の場やスカウトの場としても機能している。日本でのシュニットはいまだ手探りの状態だが「今後、海外のように学生も支援できる場となれたらうれしい」

と話した。

「映画は社会を映す鏡」だと語る谷元さん。映画にはそれぞれの社会的背景が映し出されており、さまざまな映画を見ることは新たな発見につながる。特に、若いからこそ共有できる価値観がある。「映画制作をしている学生だけではなく一般の学生にも映画祭などに行って、普段接することのない映画に触れてもらいたい」と熱を込めた。

（聞き手＝荻野史佳）



UNN 関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式 HP) <http://www.unn-news.com/>
■共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島4-2-24 ダイニホンビル4F
(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUS は
神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
阪大 POST 通信社

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 CLOCK 編集部
の共同編集による週刊フリーペーパーです